



日本山岳会

2025年4月25日発行 第159号

北海道支部通信

公益社団法人
日本山岳会
北海道支部

支部長
黒川伸一

<https://www.facebook.com/JAChokkaidoYouth>

〔事務局〕〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38 〔事務局長〕井田雅之

おんねべつ

遠音別岳
知床岳

3月、遠き知床の雪山に登る

3月上旬と下旬、アプローチが長い知床の山への山行が行われた。半島の根元寄りの遠音別岳にはウトロ側からスキーで、先端部の知床岳へは羅臼側からスノーシューでの山行だったが、どちらもほぼ海から登り、知床ならではの荒々しい自然を楽しむことができた。 (1-3面)

おんねべつ
知床の景観に圧倒された遠音別岳

3月7-9日〔山スキー〕

田中健

おんねべつ

■遠音別岳 (1330m) 3月8日

海岸線沿いの国道のほぼ標高 0m から登らなければならず、歩く距離も往復 20km 近くになる遠音別岳。3月7日朝、雪の降る札幌を出て、やっと流氷が接岸した斜里に着くと、まず 30km 先の明日の入山地を下見。オケペプ川河口の林道の入口付近に、ギリギリ 1 台分除雪された駐車スペースがあったので、少々掘り広げて明

遠音別岳



知床岳



知床半島の山



日に備え、その夜は、斜里温泉湯元館の別館に宿泊。

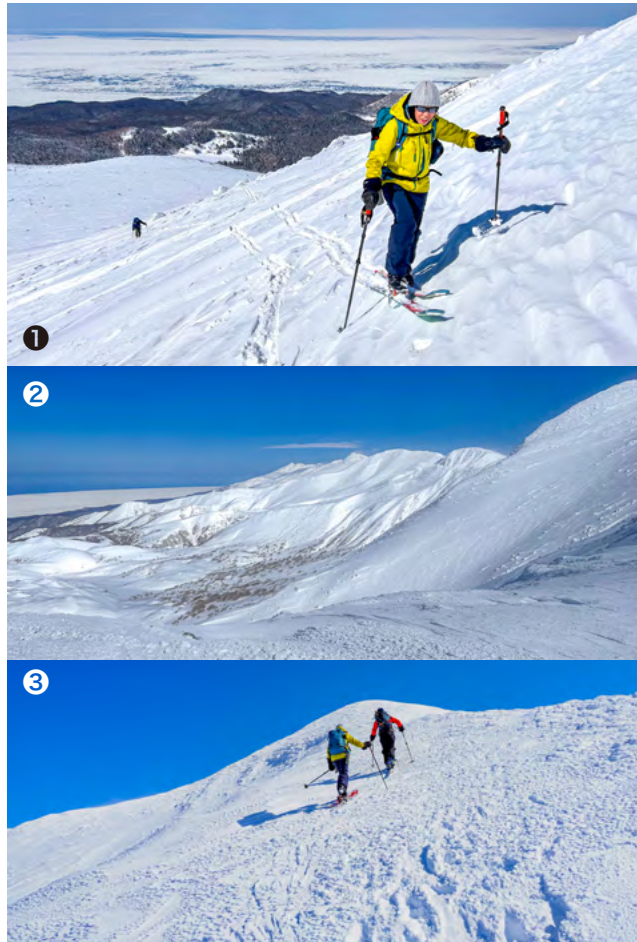
8日は朝から晴れ。駐車場所から鹿柵のゲートを乗り越えて 6:15 頃に歩き出す。30 分ほどで前日のものらしきスノーシューのトレースに合流、有り難く使わせてもらう。帰ってきた形跡がないので、山中泊しているのだろう。

標高 100m の台地に上がると、背後に朝日を浴びて真っ白な流氷。だが、ここはまだ日陰。P.252 に出ると、送電線の刈分のおかげで視界が開け、大きな海別岳とギザギザのラサウヌプリが見える。 (2面へ続く)

【目次】

- 山行報告 1 -11
- デナリ南稜初踏破報告会開催 12
- 花パト募集・研修会案内 13
- 山のトイレ・フォーラム開催 13
- 北海道支部総会案内 14
- 2024年度 新入会員紹介 15
- 2025年の主な山行予定 16

編集・レイアウト：田中健



(1 面から続く) スノーシューの単独行者に抜かれる。一旦降って針込混濁の深い樹林帯に入ると、眺望はほぼゼロに。ひたすら尾根を行くが、傾斜が緩いので全く標高を稼げない。熊の足跡がある。P.341 のそばにはテント 2 張。山頂へ向かっているらしく人の気配はない。エゾマツの純林となった後、標高 700m で急にほぼ木がなくなると、10:30 になって初めて遠音別岳がその白く丸い馬の背状の山頂部を現す (写真 1 面上)。山頂へ向かって登る人たちの姿が小さい。左手には白い羅臼岳が見え、やがて、さらにその左に硫黄山の姿も。

風もなく絶好のコンディション。水平距離では 2/3 以上来ているが、山頂までの標高差はまだ 600m。広い雪原状の尾根は、固雪の上に新雪が薄くパックされ、シュカブラが不思議な造形をつくり出している。それでも、山頂に向かって右の斜面には、真っ白で平滑に見える部分がある。最近降った雪がたまって滑りやすい場所があるかも、と淡い期待。

860m 付近からは尾根の急登となる。傾斜が緩む馬の背の 1074m 標高点を目指して、全面流水に覆われたオホーツク海を背に登っていく (写真 1)。尾根の北側には広大で平坦な場所が広がっていた。遠音別岳原生自然環境保全地域の「西側中腹部の湖沼群」がある

場所だろう。その上には、知西別岳から羅臼岳、硫黄山へ続く稜線が延びている (写真 2)。あとは、雪面に凹凸の少ないところを選んで尾根を登る (写真 3)。降ってくる男性ガイドと女性客の 2 人に遭遇。5 人パーティだが、他の 3 人から遅れて行動しているとのこと。

13:00 山頂着。快晴は変わらず、根室海峡側の海も流水に覆われているのがわかる。国後島の山々も見えているが、にわかに吹き荒れてきた強風のために、山座同定の余裕がない。最高峰・爺爺岳は霞んでよく見えなかったようだ。そそくさと準備して降る。山頂直下のシュカブラ斜面をやり過すと、下から白く見えていた部分は、多少は新雪があって、快適とは言えないが何とか滑れた。

樹林帯に入ると滑りやすくなるが、傾斜も緩み登り返しも出てくる。P.400 を巻いた後に登りのトレースに戻ればよかったが、次の P.341 も続けて巻いたら、かなりの大回りになってしまい、時間ロス。おかげでオペケブの滝を垣間見ることはできたが。

送電線下の P.252 に登り返すあたりで、ガイドツアーの残り 3 名に追いつく。P.252 からは、想像以上に高いところに遠音別岳が見えていたことを今になって初めて確認。あそこまで往復したのかと感慨深い。この日も斜里温泉に泊まった。

■瑠辺斯岳 (659m) 3 月 9 日

せっかく道東まで来たので、札幌へ帰る前に、根北峠からすぐ (標高差 170m) で簡単に登れる瑠辺斯岳へ。7 時に峠を出て、電波塔のあるピークから北東へ。一旦降って、もう一つの小ピークを越える尾根を登る。山頂までほぼ終始、後ろに斜里岳の姿が大きく見え (写真 4)、斜里岳の展望台というにふさわしい山だった。8 時半に山頂に着くと、今度は海別岳が大きく見えた。昨日遠音別岳から見たのとは反対側の南西面だ。

この日の雪質是最悪。南向きの斜面を滑るが、サンクラストしてモナカ雪となっており、全然曲がれない。沢底まで降るのはやめて登りのルートに戻る。9:45 には根北峠に戻り、札幌への帰路についた。

○参加者 L 黒川伸一、高尾美緒、田中健



■最高の天気恵まれた知床岳 (1254m)

3月20-22日【スノーシュー・アイゼン】三浦一恵

■ 3 月 20 日・晴れ 6:30 に自宅を出発し、知床に向けて観光気分で長距離ドライブ。真っ白な斜里岳、海別岳、知床連山を眺めながら 14:00 頃、羅臼着。途中で、流水がびっしり着岸している海岸越しに国後島が間近に見られて、知床に来ていることを実感。

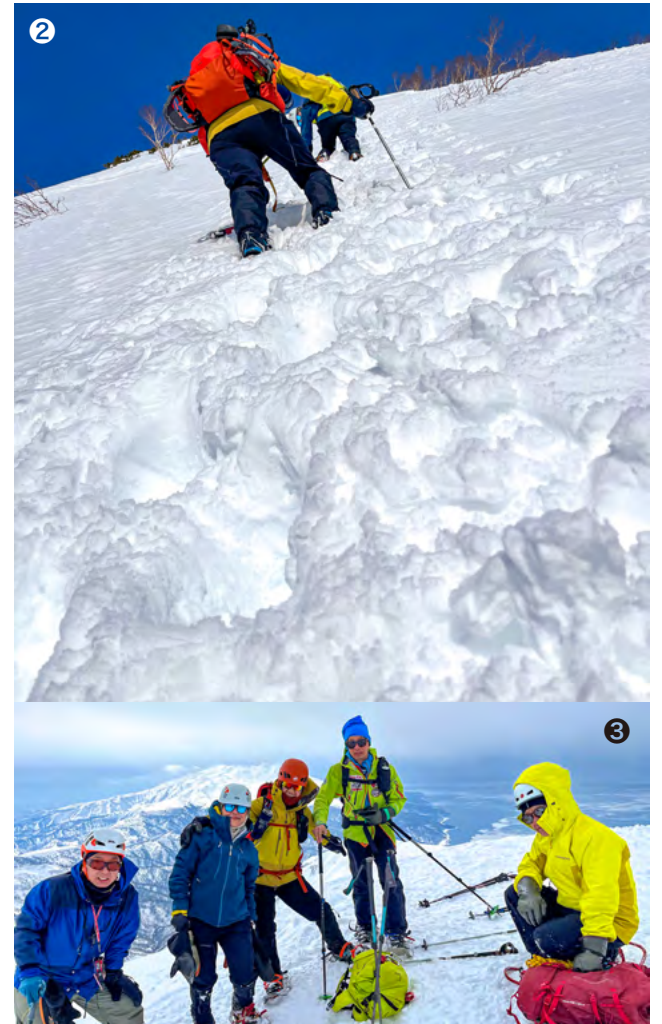
■ 3 月 21 日・晴れ 5:00 相泊港着。薄いオレンジ色に染まり出した空の下で身支度を整えて出発 (写真 1)。未知の景色にワクワクしながら海岸沿いを歩くこと 30 分。その間に、流水が点在する水平線からの日の出を見ることができ、感動。

カモイウンベ川河口付近の渡渉は流水ブリッジがしっかりあり問題なし。先行者多数でトレースもしっかりある。カモイウンベ川沿いの平坦な樹林帯を 1 時間ほど歩く。165m の二股の渡渉も、雪がたっぷりて問題なし。

尾根に取り付き、474m ポコに 8:00 着。被服調整と給水休憩を行いながら、太平洋が眼下に見られるようになった頃、標高 650m から 900m までの急登が現れ、スノーシューからアイゼン・ピッケルに変更。今回の最難関と思われる箇所に緊張したが、雪は柔らかく、先行者のステップもあって難しくはなかった (写真 2)。しかし、二本足では頼りなく、後半は四本足動物となり、10:00、1075m の地点で (旧根室国と旧北見国の) 国境稜線 (オホーツク分水嶺でもある) に出る。モンスターが点在する真っ白で広い台地の様な所で、背後には硫黄山も見られ、すばらしい景観だった。

急登で全身の筋肉を使い切ったのか足が進まない。ニセピークに騙されながら山頂稜線に上がると風が強くなり、フードを被って 11:30 に山頂到着 (写真 1 面下)。山頂からは知床連山、ウトロ側の流水のオホーツク海、半島先端＝知床岬も見られ、また感動 (写真 3)。

下山は一気にと考えたが、次第に疲れが出て、休憩を数回とりながら、それぞれのペースで下る。急斜面では、クライムダウンの練習をしながら、というメンバーもいた。



165m 二股からは樹林帯に入り、安全地帯と一息つくも、ここからが長い。ツボ足の為に時々ズボリ、おまけにポツポツ雨が落ちて寒くなり、黙々と歩くしかない。木の隙間から海が見え、ゴールが近いことを実感。海岸線まで下りて、16:30 頃、相泊港に順次無事下山。

■ 3 月 22 日・晴れ 8:00 宿出発。春の日差しを感じながら美幌峠経由で、寄り道もして 18:00 札幌着。

＊

今回の山行にあたり、事前に知床ガイドクラブの石田氏より多くの情報を頂き、さらに当日も石田氏がガイドで入山しており、大変心強くありがたかった。石田氏いわく「こんなに良いコンディションはないよ」とのことです。ラッキー! 私は昨年名和田リーダーの下で山行を計画していたが、3 日前にインフルエンザに罹り断念。2 年越しのリベンジで、今回はメンバーも増え、最高の天気にも恵まれ、楽しさ倍増の思い出深い知床岳になった。計画、長距離運転して下さった名和田さんはじめ、メンバーにはたいへん感謝している。

○参加者 CL 名和田豊、SL 黒川伸一、長谷川恵美子、三浦一恵 (他に会員外 2 名)

あいかつぶ ひさん 愛冠山 (466m) & 飛散岳 (686m) を滑る

2月1日【山スキー】

高尾美緒

秋にキノコ山行で訪れた増毛山地南部の愛冠山(466m・三等三角点)と飛散岳(686m・二等三角点)にスキー山行で登りました。夏道はなく冬限定の縦走です。

新送毛トンネル北側に駐車し、まずは愛冠山へ。旧トンネルらしき施設の右の沢沿いを上流に詰めて行きますが、あちこち沢が開き、貧弱なスノーブリッジを渡って尾根に取り付きます。斜面を登り切ると傾斜は緩くなり、青空も広がります。疎林になり、振り返ると雪を被った増毛山塊がドーンと輝き、雄冬山、浜益岳、群別岳、奥徳富岳等々山座同定。低山ながら景色が素晴らしい。

山頂では「愛冠」と書かれた小さな山頂標識を発見。ここで集合写真を撮り(写真①)、スキー滑走。200mほど飛散岳方向に滑り、その後シールを付けて登り返し。尾根は傾斜が緩く疎林。下山のスキーは楽しいだろうなと思いながら、徐々に標高を上げました。北西向きの斜面ゆえ、木の枝々に積もった樹氷が青空に映え美しい。きれいな景色に何度も立ち止まり笑みがこぼれます。

飛散岳山頂に到着。こちら増毛の山々が見渡せて、素晴らしい展望(写真②)。山頂から滑走。メロウで疎林、ストレスなくスキーを楽しめます。緩斜面ゆえ地形がはつきりせず、地図を見て軌道修正をしながら下山しました。

あまり記録のない山で他にに登山者も無く、予報以上の青空に恵まれて、充実した楽しい山行になりました。
○参加者 CL 黒川伸一、SL 増田智朗、荒田孝司、清瀬博昭、高尾美緒、三浦一恵、北原真奈美(会員外)



アイスクライミング体験会 in 恵庭溪谷

2月1日【アイスクライミング】

齋藤幸市



札幌市内は前日から暴風雪でしたが、恵庭溪谷は特に大きな積雪も見られず、比較的穏やかな天候のもと、モイチャン滝周辺でアイスクライミング体験会を実施できました。大雪の除雪等で欠席の2名を除き、遠く広島支部のホープや道内在住のイギリス人も迎え、ベテランと若手が混在する8名で氷を楽しみました。

アプローチの林道は、前年と違って木材運搬車が走っているために、市内街路と同じ圧雪で一部凍っており、転倒に留意しながら、氷瀑が見えるところまで林道を歩き、一気に川底まで降りました。

現地には先行者1パーティーがいたものの混雑はなく、25mと15m、2本の氷瀑の氷柱に2ルート、ロープを張って、アックスの打ち方やアイゼンの蹴り込みなどについて確認しながら氷に取り付きました。ただ、一部、氷柱が割れてシャワークライミングとなっている部分があるなど、例年に比べてコンディションはよくないように思われました。

アイスクライミングは、フォールによる大事故につながりやすく、また専門のツール、マテリアルも必要のため、最初のハードルは高いですが、他の山行では味わえない魅力があります。会員の総合的な技術力向上にもつながるため、道内でも限られた期間しかできない特殊なアクティビティとして、ぜひとも多くの方々に体験いただければと思います。

今回も、「久しぶり」「昔を思い出して」などというベテランの方や2回目の方もいるなど、新旧織り交ぜての体験会であり、総じて参加者からは「楽しかった」「次こそ」という感想が嬉しいところでした。

余談ですが、一番のハードワークは帰りの沢底から林道までの登り返しで、息も上がる大変な苦行でした。
○参加者 CL 齋藤幸市、SL 後藤幸治、佐藤精久、杉浦良文、名和田豊、大野雅樹(広島支部)、矢部寛(会員外)、フリーミア(会員外)

イレブンセブン 1107峰で「ジャバウ」を堪能

2月2日【山スキー】

山崎裕侍

そこはガイド本『北海道 雪山ガイド』にもYAMAPにも紹介されていない場所だった。「よくこんな場所を見つけますよね」。情報の少ないルートに少しの不安を胸に隠しながら聞いた。「いいポコがあちこちにあるからね」。ハンドルを握りながら山内忠さんが言う。「この周辺にはアポロやプリンと呼ばれるポコもあるよ」。

かつては多くの山スキー客が入っていたが、最近は少なくなったという。僕たちが目指す「イレブンセブン峰」は、余市岳エリアにある標高1107mのポコだ。英語教師(外国語指導助手=ALT)として去年8月に来日したばかりの苫小牧市在住のアメリカ人、コナー・ファウラーさんも含めて12人のパーティ。

キロロスキー場の余市川脇からスタートし、支流に沿って登っていく。左の尾根から登り、969m標高点を経てピークにいくルートもあるようだが、僕たちは沢沿いのルートをとる。ここから標高差350mの急登だ。しかも膝上まである雪のラッセル。35歳で体力のある横山さんが先頭をいく。交代したベテランの山内さんや精久さん



会友年会費納入のお願い

支部会友、会員会友の皆様、新年度の会費納入をお願いします。

◎会友の年会費

■支部会友 3,000円

■会員会友(他支部所属の会員) 2,000円

※夫婦で会友の場合は1人分の会費を納入
夫婦どちらかが会員の場合、配偶者の会友会費は免除

◎振込先

ゆうちょ銀行の日本山岳会北海道支部の口座
振込手数料はご負担願います。

住所、電話番号、メールアドレス変更時の連絡のお願い

郵送物や電話、メールなどでの連絡をお送りする関係で、住所や電話番号、メールアドレスの変更があった際には、右記までご連絡願います。

は、女性もいるほかのメンバーにも登りやすいよう、ゆるやかなジグを切っていく。定年退職した2人の体力にはいつも脱帽する。僕も何度かラッセルしたが、雪が重い。やはり気温が高いのだろう。

途中、稜線の上に小さな晴れ間が見えた。青空を見ると、疲れも吹き飛ぶ。だが、山頂に近づくにつれて天候は悪くなり、期待した空はどこかへ消えていった。記念写真(写真)を撮り終えると、早々に滑降の準備をはじめた。登ってくるときにすでに分かってはいたが、サラサラなパウダーではない。力なく滑降すると停まってしまうほどの重さだ。それでもノートラックの白い斜面を切っていく気持ちよさは格別だった。

990m峰に向けて登り返すが、パーティの1人にスキートラブルが起きた。900mまで登っていた僕らは、ここからドロップすることにした。この滑りが素晴らしかった。雪が重い分、跳ね返りも強い。膝上まである雪は、滑降していると視界が隠れるほど雪煙が舞い、そのなかを飛んでいるような感覚になる。おもわず歓声が出る。アメリカ人で初山スキーだったコナーさんも「素晴らしい経験」と感動していた。

ツリーランで下っている最中、2、3組のパーティとすれ違う。日本人ガイドが西洋人のカップルをつれて登っていた。“ジャバウ”を求め、飽くなき探索をする外国のスキーヤーがここを見つけるのも時間の問題かもしれない。
○CL 黒川伸一 SL 山内忠、SL 山崎邦子、小川茉莉、佐藤精久、佐藤正倫、平松昌子、三浦一恵、山崎裕侍、横山諒平、大野雅樹(広島支部)、小野聡子(会員外)、コナー・ファウラー(会員外)

■ゆうちょ銀行から振り込む場合

【記号】19040 【番号】21640631

口座名義：シャ)ニホンサンガクカイホッカイドウシブ
＊ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方はATMから振り込むと手数料が安く済みます。

■ゆうちょ銀行以外の金融機関から振り込む場合

【店名】九〇八(キュウゼロハチ)

【店番】908 【預金種目】普通預金

【口座番号】2164063

【連絡先】黒川伸一

天幕山周回 & イトムカ川から武華山

2 月 8-9 日 [山スキー] 黒川伸一

オホーツク海の影響を受ける 2 月の北見山地の山は雪質が素晴らしく、これまで毎冬の支部山行の計画に入ってきている。今冬は、天幕山のバリエーションルートとイトムカ川からの武華山の 2 本立てで企画した。流氷が未接岸だったので、酷寒というわけにはいかなかったが、2 山ともいい雪で遊ばせてもらった。



①



②

■天幕山（1052m）2 月 8 日

上川町にある「上川三山」のうち、スキー山行で最も人気の高い天幕山。今回は、記録があまりない南西面を使った周回ルートを計画した。

国道の除雪スペースに駐車し、中越踏切で石北本線の鉄路を渡り、シビナイ川最下流のスノーブリッジを使って尾根末端に取りついた。作業道を使いながら急な尾根を上がれば、あとは緩やかな南尾根に行く。山頂直下の大斜面は毎度素晴らしいが、この日は登りでジグを切るだけ（写真①）。大斜面を登ってほどなく山頂に達する。

山頂からは方向を見定めて南西斜面へ。想定していたより立木が多いものの快適なツリーランが続き、軽いパウダースノーが雪煙となって心地よい。予定通り、平ノ沢ボトムまで滑り込み（写真②）、登ってきた南尾根まで登り返し、立木が少なかったシビナイ川右岸斜面を滑ってシビナイ川林道経由で下山し、周回を終えた。

かつてあった駅の名前から天幕が地区名となり、そのまま沢名となり、沢の水源の山として、この天幕山の山名が残る。天幕駅は廃止となり、現在は記念碑のみが立っているが、碑には〈明治 29 年 8 月、当時の北海道庁鉄道建設部長 田辺朔郎氏が全道の鉄道線路踏査のため当地に入った際、天幕三次郎なる人物に世話になった思い出から駅名を「天幕」とした〉旨が記されているという。

下山後は上川町の「いきいきセンター たいせつの絆」で汗を流して、層雲峡オートキャンプ場の週末コテージへ。長谷川シェフのエゾシカシチューなど、見事なメニューに舌鼓を打ち、楽しい時間を過ごさせてもらった。

■武華山（1759m）2 月 9 日

9 日は早起きして石北峠を越え、イトムカ川林道起点からスキーで歩き出す。典型的な冬型のために西風が強いが、日本海から距離があるこの山域は降雪も少なく、イトムカ川沿いに行く限り、地形的に稜線までは風雪は防げるという読みもあった。

イトムカ川は随所で水流が露出しており、積雪の少なさを感じさせた。沢沿いをうまくすり抜けながら標高 1450m 地点へ。山頂に直登する尾根に樹林がつながっていて躊躇したが、安全を期して前ムカ平につながる尾根を登路に選び、あとは尾根にジグを切りながら標高を上げ、稜線に出た。前ムカ平と山頂の間にある 1750 m 峰まで上がり（写真③＝後方が山頂）、あと一息だったが、風が強くなり、ここを最高点として（写真④）、ツリーランで沢沿いに滑り下った。



④

○参加者 CL 黒川伸一、SL 田中健、SL 増田智朗、今芳文、桜井則彦、高尾美緒、長谷川恵美子、三浦一恵、山崎邦子、横山諒平、大野雅樹（広島支部）

測量山／室蘭岳

2 月 10-11 日 [スノーシュー] 藤木俊三

当初、1 日目は移動日にして室蘭岳山麓の山小屋「白鳥ヒュッテ」に泊まり、翌日に室蘭岳に登る計画でしたが、せっかく室蘭まで行くな、どこかもう 1 カ所登りたいという要望があり、宿泊もシュラフ無しで泊まれるところがいいということになり、1 日目を測量山スノーハイクとし、宿泊も室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設「サンパワー 380」に変更しました。

このサンパワー 380 は室蘭市の施設で、自炊、二段ベッドながら寝具がついて、大きな風呂もある、なかなか快適なところ。なんと宿泊料が 65 歳以上は 1560 円、一般でも 2400 円という驚きの安さでした。ただ、個人が単純に旅館代わりに使うことはできず、何らかの団体やグループが、研修や学習名目で利用するのでなければ泊られません。そこで今回私たちは「スノーシューによる冬山登山研修」という名目で申し込みました。



①

■測量山（199m）2 月 10 日

1 日目は、祝津の道の駅に集合し、絵鞆町から冬季閉鎖の車道を歩いて測量山山頂を目指すスノーハイクを楽しみました。積雪は少なく特に危険な急斜面もないため、何もつけずにツボ足で歩きました。

コースは、「室蘭八景」に数えられる「銀屏風」「マスイチ浜」など、絵鞆半島外海岸の断崖絶壁を望む絶景が次々と現れ、なかなか見応えがありました。また、海に直接面した独特の植生の樹林帯も興味深いものがありました。

地元・室蘭在住の鹿熊寿恵子会員から、春に咲く花や山菜の情報を聞き、違う季節にも来となりました。変化に富んだ道を歩くことおよそ 1 時間半、柵に「女測量山」のプレートがついた平らな草原の丘に到着しました。ちょっと変わったネーミングの山名ですが、測量山

本峰を男性に見立て、前衛の小ピークを女性に見立てたネーミングのようです。

ここから少し下ると、TV 送信所のアンテナが林立する測量山はすぐ目の前。車道を歩き、最後にコンクリートの階段を上ると、モニュメントや展望台のある山頂に着きました（写真①）。有珠山、白鳥大橋、室蘭港、製鉄所や製油所などの工場群、それに室蘭岳と、風の冷たさも忘れる素晴らしい眺めでした。

下山後は、道の駅やコンビニで室蘭焼き鳥、弁当などを仕入れてサンパワー 380 へ。お風呂に入って、貸し切りの大食堂で「研修のミーティング」と称する小宴で懇親しました。

■室蘭岳（911m）2 月 11 日

2 日目は、太平洋から昇る綺麗な朝日とともに起床、簡単な朝食を済ませて、だんばらスキー場駐車場へ。8 時 15 分にスノーシューをはいてスタートしました。15 分ほどで白鳥ヒュッテに到着。

ここからは夏道のある南尾根の左側の斜面に行く「冬コース」に登りました。雪は少なめですが、スキーで登る人も多いようで、シュプールがあちこちに残り、この日も、スキーで登る登山者に結構会いました。樹林帯は木もまばらで、この時期は雪質もまずまず。急なところもなく、室蘭周辺では手ごろなバックカントリーエリアのようでした。

登りはじめは青空も見え、室蘭の町や港も見えていましたが、次第に雲が出てきて、時折雪もちらつく天気になり、巨大な山名標識のある山頂では吹雪になりました。長居は無用と、記念写真を撮影して（写真②）すぐに降りました。途中風の当たらない樹林帯で昼食をとり、11 時 45 分に駐車場に戻って解散しました。



②

○参加者 L 藤木俊三、鹿熊寿恵子、神山順子、神埜和之、橋本一郎、平田健三、藤原千恵、石丸なみ、藤原仁、山水秀美

幌加内の三頭山でパウダースノーを楽しむ

2月11日【山スキー】 高尾美緒

当初は恵岱岳の予定だったが、起点となる道道脇の駐車帯に駐車禁止の立札が立てられたとの情報があり、急遽前日に、天気や駐車場などを考慮して幌加内の三頭山（1009m）に決定し、決行に至りました。

幌加内町の道の駅「森と湖の里ほろかない」に集合し、2、3日前のものらしきトレースを使わせてもらって標高350mまで林道を詰めていきます。その後トレースを外れて、山頂への最短ルートとなる尾根に取り付けました。

標高650mから900mまでは急登でしたが（写真①）、若手メンバーがガシガシとラッセルしてくれたおかげで4時間弱で山頂に到着（写真②）。予報通り山頂では晴れて微風。幌加内の山々がぐると見渡せ、素晴らしい展望。残念ながら山頂標識は雪の下でした。



大量降雪の後ということもあり、安全を考慮して、登りに使った尾根を滑ることにしました。しかし、尾根上にも素晴らしいふわふわなパウダー斜面が広がり（写真③）、さすが雪の聖地・幌加内！パウダースノーを思う存分楽しんで下山しました。

下山後は、道の駅裏の「せいわ温泉ルオント」に浸かり、幌加内名産の蕎麦を味わい、道北の豪雪地・幌加内を充分満喫した一日となりました。
○ CL 高尾美緒、SL 横山諒平、今芳文、佐々木朋代、佐藤正倫、山崎邦子、大野雅樹（広島支部）、花田大丈（会員外）

ルベシベ
稲穂峠近くの累標山でビギナー向け山行

3月1日-2日【山スキー】 峠原直美

山スキー・ビギナー向けの山行に参加しました。場所は積丹半島付け根の「ルベシベ山」。漢字は「留辺蘂」ではなく「累標」。北海道の地名は難しい。コースも、これがビギナー向け？と思うほど、私には難コース。

国道5号を渡って林道に這い上がり準備。林道はよかったのですが、沢沿いに入るとトレースを踏み抜かないよう慎重に板を進めなければならず、急登では板を外したり、ロープで引き上げてもらわねばならず、不安に。ヘルプして下さる方がいなければどうなっていたか……。

そして、3月とは思えないほど暑くて、ひとりサウナ状態で汗だく。どうにか沢を抜けて少し景色も楽しみ、雪質に不安を感じながらも、ジグを切ってピークに到着し、記念写真に収まりました（写真）。

少し曇ってはいるものの羊蹄山も見え、素晴らしい景色！少し休憩して滑走開始。グレンデの様に広い斜面は



それほど急でもないのですが、ウィンドクラストで板がコントロールできず転倒。ヤバイ！と思ったら転ぶのが正解！と自分の中で決め、7回転倒。樹林帯に入ると緩やかではなく、トラバースをしながら横滑り。今回で横滑りが上手くなったかも！

林道に出てからは快適に滑り、入山口に到着しました。ご一緒して下さった皆様ありがとうございました。冬山を何とか攻略し、楽しみたいと思っています。

○参加者 CL 黒川伸一、SL 増田智朗、小川茉莉、齋藤幸市、齊藤宣明、須田康仁、峠原直美、納谷和行、平松昌子、三浦一恵、横山諒平、尾谷早苗（会員外）

京極山荘に泊まって羊蹄山・喜茂別岳へ

2月20日-23日【山スキー】 久保田優一

2月21日朝9時過ぎ、札幌を出る頃には時折激しい雪となり、天候が危ぶまれたが、中山峠を過ぎると、青空のなかに真っ白な羊蹄山が目に見え、飛び込んできた。先行の人たちはどのあたりを登っているのだろうか、今頃はパウダースノーを楽しんでいるのだろうか（写真①＝その頃羊蹄山では）、などと想像していると、携帯が鳴り出した。橋本会員からで、山から京極山荘に戻ったとのこと。「待っています」との電話だった。しかし、京極山荘に行くのは初めてで、無事着けるか心配であった。案の定、京極温泉で道が分からなくなり、藤木会員に電話して、無事小屋に着くことができた。

小屋に着くと丁度昼食時で、早速、女性会員の作ったおいしいホルモン煮込みうどんをいただいた。午後からは、皆さん山へは行かず、小屋で休憩とか。私は足慣らしのため、京極登山口まで、常本会員のスノーシューで案内してもらい、久しぶりに羊蹄の雪を楽しんだ。15時過ぎ、全員で京極温泉に行く。

小屋周辺の駐車場には、フランス・シャモニー近くの街から来たというソコの若い女性が出山しており、話をすると、山頂まで行ったという。京極コースには他にも多数の外国人スキーヤーが入山、温泉にも外国人が来ていた。京極山荘の夜は、薪ストーブの柔らかな炎と、大きな窓から月夜に照らされた雲一つ無い青白い羊蹄を



見ながら、一鐵会員の自家製ワインにメインディナーの橋本風ジンギスカン鍋をいただき、夜の更けるのも忘れて小屋での団らんを楽しんだ。

22日朝、モルゲンロートに染まる羊蹄（写真②）を眺めながら、女性会員の入れてくれたおいしいコーヒーと朝食を食べ、7時過ぎに出発。喜茂別岳登山口に到着して8時過ぎ、林道沿いに山崎会員、藤木会員のラッセルで登り始める。快晴無風、真っ白な羊蹄の見える送電鉄塔下に到着するが、ここで常本会員が引き返すと言うため、橋本会員がサポートして下山。残りの8名は山頂を目指す（写真③＝羊蹄山をバックに）。

12時45分過ぎ、喜茂別岳山頂に到着。ここには、今夜京極山荘に泊まるという吉岡氏が待っていた。エビのしっぽのついた山頂標識とともに写真を撮り（写真④）、下山を開始。スキーを楽しみながら下山する。途中、10台ほどのスノーモービルの一行が走っていた。登山口近くの林道ではスノーモービルが付けた波のようなキャタピラ跡に手こずりながらも、全員無事下山。

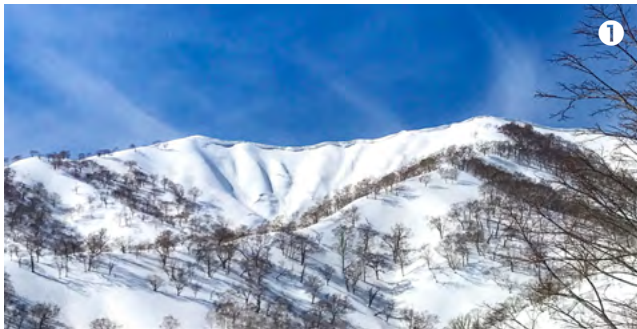
登山口で神山会員、山崎会員と別れ、京極温泉に入浴して再び京極山荘へ。荒田、中沢会員が既に到着しており、会員外の2名も加わり、12名で酒宴を楽しんだ。

23日は小屋を掃除して解散した。女性会員の皆様、本当においしいお料理ありがとうございました。

○参加者 CL 橋本一郎、荒田孝司、一鐵巖、神山順子、久保田優一、銭亀三佐子、中沢友佑、藤木俊三、藤原仁、藤原千恵、山崎裕侍、吉岡雄一他2名（会員外）

黒松内低地帯の幌別岳、写万部山を滑る

3月1日 -2日 [山スキー] 平松昌子



■幌別岳（892m） 3月1日

蘭越町・三笠会館前の駐車帯に車を置き、すぐ前の道路を走行する車に気に留めながら準備し、脇の林道から入山した。今シーズン初の山スキーとあって、ビンディングの扱いを忘れていたため、少し心配しながら長い林道を歩いた。

途中、キツネ、ウサギが現れ、山で初めてアライグマも見ることができた。アライグマは木に素早く登り、縞々の尻尾をこちらに向けているのに顔は隠して抜群の可愛さ。1年分の山の動物を見ることができ、まさかの林道での癒しに満たされる。しかし、周りの人から害獣だと教えてもらい、調べると悪評ばかりで、罪はないのに切ない気分。

標高 200 m 付近のヘアピンカーブから尾根に取りつ

き、高度を上げていくと山頂の稜線（写真①）と風にたなびく雲、疎に生えた木の様子が美しく、久しぶりに好きな風景を眺めて無になる。また、ニセコ連峰と羊蹄山が現れ、1年ぶりの挨拶もできた。

低山ながら、山頂まではなかなか遠かったが、雪庇を避けてようやく広いピークに辿り着いた（写真②）。滑降モードにして、登路を滑ったようだが、緊張のためか記憶なし。スキーは全く上達しないが、雪質のせいだと思うことにする。宿舎の黒松内ぶなの森自然学校で夕飯を作り、温泉と宴会を楽しんだ（写真③）。

■オタモイ山（272m）- 写万部山（499m） 3月2日

当初予定していた寿都・天狗山は、近いが天気は悪い予想。登り口まで行くと、雲がかかっているため、太平洋側で天気の良い、オタモイ岳 - 写万部岳に転進することになった。オタモイ川沿いの道路から写万部山登山口の方へ向かうと、除雪された駐車帯があった。廃屋の裏手から山へ入り、昨日とは違う海、太平洋を眺めながら登る。最初の目的地のオタモイ山にはきれいな標識があり、そこからまたゆるゆると次の写万部山へ向かう。登りやすい斜面だったが、山頂までいくつか小ピークを越えるせいか、また遠い。でも景色は引き続き良い（写真④）。いい雰囲気のだけカンバの樹林帯を越えてやっと山頂。下山は、冬尾根に行くことになり、ピーク直下は急斜面でガリガリだったが、冬尾根の一部で一足早いザラメを楽しんだ。オタモイ川を渡った方が駐車帯に近いが、渡渉できるポイントがどこにあるか不明なので、林道をひたすら歩く組と頑張って渡渉する組に分かれる。林道では周りに樹木すらない真白な世界を滑り、また無になれた。林道の折り返しはなかなかの修行で、駐車帯に着くと、元気な渡渉組が出迎えてくれた。



○参加者 CL 黒川伸一、SL 増田智朗、SL 齊藤宣明、小玉孝之、今芳文、須田康仁、平松昌子、藤田宗昭、横山諒平、大野雅樹（広島支部）、小野聡子（会員外）

吹雪の北白老岳スノートレッキング

3月20日 [スノーシュー] 藤木俊三



計画では、国道 276 号美笛峠の伊達市側、二の沢林道から北白老岳（945m）の北西尾根に登り、頂上から白老岳（968m）に縦走し、白老岳北西尾根を下る予定でした。ただ、この日は冬型の気圧配置で胆振方面まで雪雲が流れ込み、白老三山周辺も断続的に雪が降る生憎の天気となり、結果的に北白老岳往復になりました。

8 時すぎに駐車スペースに参加者が集合しましたが、小樽から参加予定の 2 名が高速のインターを間違えて合流できず、9 名で登ることになりました。駐車場を 8 時半に出発、林道入口でスノーシューをつけました。

林道を 20 分ほど歩くと「北白老岳」「白老岳」の方向を示す標識が木につけてある林道分岐に着きましたが、あたりの雪の上には 20cm 以上はあるクマの足跡が！クマの歩いた方向を確かめ、私たちの進む方向には向かっていないようだったので、そのまま登ることにしました。

緩い幅広い尾根の上を進みます。視界はなく、時折吹雪になる中を黙々と進むと、次第に傾斜が出てきて顕著な尾根状の地形になります。晴れていれば真後ろに羊蹄山が綺麗に見える細い尾根に出ます（写真）が、雪が横殴りに吹き付ける最悪の天気で、眺望は全くありませんでした。

車を出発してからおよそ 2 時間半、細いだけカンバの樹林帯の急斜面を登ると「北白老岳 945m」の 2 枚の看板がある山頂に着きました。悪天候のため白老岳への縦走はあきらめ、登ってきたルート引き返すことにして、急いで全員の記念写真を撮り、下山しました。

山頂付近や細尾根上は風が強いので、お昼はかなり下った樹林帯の中で食べました。下山時に今一度クマの足跡を観察すると、どうやらクマは沢のほうから登って来ているようです。爪の跡がわかる足跡もあり、比較的新しいようでした。午後 1 時前には車に戻り、解散しました。○参加者 L 藤木俊三、鹿熊寿恵子、神山順子、北川麻利子、清水義浩、橋本一郎、藤原千恵、藤原仁、山水秀美

塩谷丸山で今季最後のスノーシュー山行

4月2日 [スノーシュー] 藤木俊三

今シーズンのスノーシュー山行の締め括りとして、小樽の塩谷丸山（629m）に登りました。参加者は 7 人と 1 匹。1 月の馬追丘陵に続き、三浦一恵会員が愛犬エクちゃんと参加しました。

午前 9 時前に高速道路下の登山口駐車場に集合。高速をくぐった夏の登山口は一面の雪。トレースがあり、雪も固く締まっていたのですが、コースを外すと埋まるので、念のためにそこからスノーシューを付けて入山しました。

この日は天気が下り坂で曇り空でしたが、気温は高めですぐに汗ばんできました。ルートの夏道にそって過剰と思われるほどピンクテープがついています。カラマツ林の中を緩やかに登っていくと、次第に傾斜が増し、直登がきつくなります。夏道がジグザグになるあたりで直登のトレースを避け、ジグザグを切るトレースをたどりました。

再び傾斜が緩くなってトレースもまっすぐになると樹林が薄くなり、次第に展望が開け、日本海や積丹半島が見えてきました。先行するエクちゃんは右へ左へ、一気に登ったかと思うと、引き返してみたりと相変わらずの健脚（犬脚）を見せてくれました。おそらくは移動距離は私たちの倍くらいになっているのではと思うほどでした。

広大な雪原の向こうに山頂が見え、見た目では距離感も感じますが、花を咲かせ始めた「バッコヤナギ（山猫柳）」や遠くの景色を見てワイワイ言いながら歩くこと 30 分ほどで頂上に到着。出発してから 2 時間強でした。

山頂標識前で全員一緒に記念写真を撮影（写真）後、奥の祠や錨が安置してある見晴台で昼食を食べ、11 時 55 分には下山開始。スノーシューでは下りづらそうな雪だったので、私はかかとキックステップで降りました。一部メンバーはソリやビニールシートで尻滑りを楽しみながら 1 時間ちょっとで下山。札幌に向かう頃には雨が降り出しましたが、山の上では風に吹かれることもなくラッキーな山行でした。



○参加者 L 藤木俊三、一鐵巖、北川麻利子、藤原千恵、三浦一恵、藤原仁、山水秀美

「デナリ大縦走 伝説のルート初踏破報告会」北大山の会と共催

「デナリ大縦走 伝説のルート初踏破報告会」が、当支部と、当支部の会員でもある北大山岳部・山の会との共催、秀岳荘とりんゆう観光の協賛により、2月18日に札幌・りんゆうホールで開催され、支部会員・会友も含め83人が参加しました。

「伝説のルート」とは、カヒルトナピークスからカシンリッジをへて北米最高峰、アラスカのデナリ（＝マッキンリー・6190m）山頂に達する「デナリ南稜」のこと。昨年同ルートの完全トレースを成し遂げた3人の若手クライマーのうち、北大山岳部出身の竹中源弥さん（27）と信州大学山岳会出身の竹田昂さん（25）によって行われたこの報告会は、北海道を活動拠点とする若手クライマーを支援する秀岳荘の小野浩二社長、りんゆう観光の植田拓史社長（ともに当支部会員）の肝入りで実現。開会に先立って黒川支部長が挨拶を行い、司会は信州大学出身の藤木前支部長が務めました。また、参加者募集や受付、後片付けなどは当支部会員も担いました。

デナリ南稜は、2008年に日本人パーティー（ギリギリボーイズ）の2人がデナリ山頂直下まで踏破したものの遭難し、2011年には花谷泰広さんと谷口ケイさんが挑むも悪天や雪崩に阻まれ、日本人クライマーにとって宿願となっていた難ルート。「伝説」と呼ばれる所以です。

昨年5-6月、竹中さん、竹田さんに、信州大学山岳会出身の永山虎之介さん（26）を加えた3人は、カヒルトナピークスの氷のナイフリッジを10時間×4日間に及ぶダブルアックスでのトラバースで突破すると、ジャパニーズ・クーロワールから、岩を含む標高差2500mのカシンリッジに取り付き、山頂台地へと抜けました。

今回の報告会では、クライミングの詳細に加え、現地到着早々、ほぼ全装備を盗まれるというハプニングに遭いながらも、現地の岳人たちの善意によって山に登るこ



とができた経緯や、極限状態での心理状態、パーティ内の人間関係、そして天候が悪化する中最後に、下山ルートとのジャンクションから2時間かかる山頂往復を行うか、それともすぐ下山するかについての葛藤など、山の上で繰り広げられたさまざまな人間ドラマが、包み隠さず赤裸々に語られ（写真①）、実にリアルで新鮮な報告会でした。活発な質疑応答（写真②）の後、閉会となりました。

その後、会場を変えて行われた、当支部、北大山の会、秀岳荘、りんゆう観光のスタッフとの打ち上げでは、小野社長の提案によって報告会場で集められた募金が、竹中さん、竹田さんに手渡されました（写真③＝右・竹中さん、左・竹田さん）。（田中健）



大雪山“花パト”2025年度パトロール員を募集

北海道生活環境部から生物多様性保全事業の一環として委託を受け、支部の公益事業として毎年実施している「大雪山国立公園高山植物盗掘防止パトロール」（花パト）。2025年度も受託予定で準備を進めています。

実施要領はほぼ例年通りで、パトロール員として募集するのは、6月1日から10月10日までの期間に大雪山国立公園で3日程度パトロールできる方。山岳傷害保険への加入が条件となりますが、活動を行った方には保険料の一部が助成されます。

パトロール員に登録希望の方は締切までに、自然保護研修会（右記）の参加の可否も含めて下記担当までお申し込みください。

【申込・問い合わせ先】小松理恵子

【申込締切】5月2日（金）

自然保護研修会

【日時】5月16日（金）18:00～【会場】札幌エルプラザ

【講師】市川利美（ナキウサギふぁんくらぶ代表）

花パト説明会を兼ねた自然保護研修会、今回はナキウサギふぁんくらぶ代表の市川利美さんをお迎えし、加速する地球温暖化の中、エゾナキウサギが置かれている状況や保護活動についてご講演いただく予定です。

【ナキウサギふぁんくらぶ】pikafan.com

1995年、全国各地のナキウサギを愛する125名の女性が、ナキウサギが絶滅しないようにという思いで結成。

〈主な活動〉

＊ナキウサギの生息調査・保護活動

＊文部科学省・環境省等への要請活動

＊写真展や講演会の開催 ＊『ナキウサギつうしん』発行

＊ナキウサギの天然記念物指定を求める署名活動

＊オリジナルグッズ販売 ＊DVDを教育機関へ無償送付

日高山脈襟裳十勝国立公園をテーマに「山のトイレ・フォーラム」開催

「第26回山のトイレを考えるフォーラム『日高山脈襟裳十勝国立公園』誕生！～日高の山を愛し、地域で活動している仲間から学ぶ～」が3月15日に札幌エルプラザで開催され、支部会員、会友を含めた66名が参加しました。環境省北海道地方環境事務所の所長、次長や同国立公園指定区域の町長も参加されていました。

昨年6月25日に誕生した日高山脈襟裳十勝国立公園。今回のフォーラムの開催目的は、一つには、その国立公園指定エリアで地元の山を愛し登山道、避難小屋、トイレなどの維持管理に熱心に取り組んできた山岳団体の活動を知り、現場の実情と課題を共有すること、そして、環境省が設立した日高山脈襟裳十勝国立公園協議会を通してそうした現場の声を行政に届け、官民協働の保護と適切な利用を推進するには、どのようにコミュニケーションをとっていけばいいのかを一緒に考えていることにありました。

前半は、新冠パロシリ山岳会（松本健会長は当支部会員）事務局長の堤秀文さん、一般社団法人平取町山岳会事務局長の藤田英幸さん、十勝山岳連盟理事長で芽室山の会の上島寛さんによる地域活動の紹介。

後半はパネルディスカッション（写真）。上記3名に、北海道大学大学院農学研究院教授の愛甲哲也さん（当支部会員）、環境省帯広自然保護官事務所自然保護官



の柳田邦玲雄さん、環境省新ひだか自然保護官事務所自然保護官の草留大岳さんを加えた6名をパネリストに、山のトイレを考える会会長の小枝正人氏をコーディネーターに行われました。会場からも多くの意見が出され、新しい国立公園への関心の高さをうかがわせました。

今後は、環境省や地元自治体、山岳会に山岳環境問題を委ねるのではなく、当支部会員、会友など関心のある人たちが協力して、陸域日本最大面積の日高山脈襟裳十勝国立公園が、より良い方向に進んでいくよう取り組んでいければと思います。

フォーラムの詳しい報告は「山のトイレを考える会」ホームページをご覧ください。と思います。（高橋健）
www.yamatoilet.jp/mtclean/forum261.htm

2025 年度北海道支部総会を 5 月 25 日に開催

2025年度 日本山岳会北海道支部総会

【日時】 5 月 25 日（日） 14:30 -16:30（開場 14:00）

【会場】 札幌エルプラザ 4 階 大研修室
札幌市北区北 8 条西 3 丁目 2 8【議案】 2024 年度事業報告・収支決算報告
2025 年度事業計画・収支予算案、役員改選 他【懇親会】 大庄水産 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 読売北海道ビル 2 階
17:00-19:00 会費：4,500 円

向こう 1 年間の支部の活動方針、事業計画、予算等を決定する重要な会議です。別途送付または同封の議案書をお読みいただき、議案書と同封のハガキにて **5 月 15 日** までに欠等をご返信ください。

なお会友の皆様は議決権はありませんが、総会を傍聴できるよう準備いたします。懇親会にもご出席いただけます。

昨年・2024 年 1～3 月、ルスツリゾートで働いていた時に羊蹄山を滑りたいと思い、北海道支部の Facebook に連絡したところ、黒川さんや齋藤幸市さん、田中健さんと繋がり、羊蹄山やワイズホルンに連れてってもらいました。

この時「もっと北海道の色々な山を滑りたい!」と強く感じ、繋がったご縁をフルに活用させていただき、今年・2025 年は、その思いを実現させることができました!

1 月 22 日から 3 月 10 日まで 48 日間滞在した中で、スキー関連では、山スキー山行 19 回、スキー場でのスキー 11 回の活動を行うことができ

ました。スキー山行の大半は、支部の沢山の方々に誘っていただいたもので、とても充実した日々になりました。

北海道の素晴らしいところはまず、でかいこと。なので、山が沢山あります。そして駐車場から粉雪です（自分たちからすればパウダー）。1 時間も歩けば森林限界を越え、北アルプスの 2000m 級の景色を見ることができます。雪が降った日は、スキー場の方がパウダーを楽しめる?可能性もあります。自分のような、パウダーの滑り方を知らない「パウダー初心者」には、絶好の練習の場でした。そんな中で印象に残った 2 つの山行を挙げます。

■キロロ 1107 峰

スキー板でのラッセルを初めて経験しました。転んだら足元よりも深く沈み、深雪の怖さを感じました。腰以上の雪を掻き分けて山頂に着くと、周りの山々はガスに隠れていましたが、口元に雪飛沫を浴びながら滑る体験は今でも鮮明に思い出します。

■黒松内低地帯・幌別岳

北海道滞在中も終わりの頃にやって来たこの山。ニセコ連峰や羊蹄山をバックに登ると、無数の白い尾根と谷を擁する幌別岳が現れ、さらに眼下に日本海があり、

の先には積丹半島、噴火湾の遥か先には駒ヶ岳も見ることができ、思い出を巡らせ北海道

滞在を締めくくるにはよい山でした。

北海道でバックカントリースキーの良さは里山にあるのでは?と思いました。来年は大きい山にも行きたいです。



北海道滞在を振り返って

大野雅樹（広島支部）

■ 藤田宗昭 さん 会員番号 17267

北海道で初めて体験した山は芦別岳。4 月下旬に雪で詰まっている本谷を登りながら、北の緯度にある山の凄さを実感。その後も日高や知床の沢などで、自然の懐深さを知りました。



帯広で過ごした学生時代以降、しばらく Peru と Brasil で生活。山とは縁遠くなっていたのですが、今は札幌に腰をおちつけ近場の山を楽しんでおります。

最近は溪流釣りをしながら沢中で幕営&焚き火が推し。どなたか、ご一緒いかがでしょうか。

■ 菊地宏治 さん 会員番号 17272



大雪山・白雲岳の山頂にて

私は東京の下町生まれで、29 歳まで千葉県松戸市に住んでいました。今年 64 歳で仕事は 1 年前に辞めてフリーの毎日を楽しんでいます。高校の山岳部に 2 年間だけおりましたが、その後はさっぱり。北海道への移住を機に登山も少しずつ再開し、色々な山に行きました。しばらくは夏山専門でしたが、山スキーやスノーボードでメジャーな冬山ゲレンデにも行くようになりました。最近は体力も落ち、日帰りで楽な山が旅行を兼ねた全国の未訪問の山などが多くなりました。

また、ユウパニコザクラの会の事務局を担当しており、シーズン中は小屋番や花パトロールで数回タ張岳に登っております。ご一緒する機会がありましたら、よろしくお願いいたします。

■ 坂本明美 さん 会員番号 17324

2020 年 11 月より山登りを始め、ご縁があり入会させていただきました。生まれも育ちも北海道で、北海道の大自然が大好きです。



山は山頂からの眺め

大雪山・旭岳にて

や、普段の生活では経験できない様々なことが魅力に感じます。

まだわからないことが多い初心者なので、皆さまとご一緒の機会にいろいろ教わることも多いかと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■ 阿部幹雄 さん 会員番号 17346

極地探検に憧れ、松山から札幌へ。山に没頭した学生時代、夢は 8000m 峰の登山だった。中国の高峰で仲間 8 名が滑落死、私も死を覚悟した。遭難を機に垂直から水平の探検に指向を変えた。

千島列島最高峰のスキー滑降、カムチャツカ半島の山々の滑降。辺境と極北を旅しながら、8 名の遺体捜索、収容を行った。

54 歳から 3 年間、南極観測隊員になり、山岳地帯で孤立無援のテント生活。任務は



ひとりも怪我をさせず、ひとりも失わないで帰国することだった。過酷な南極暮らしだった。

今は藻岩山を散策するくらいだ。しかし、社会のため、人のため、生き物たちのために役立ちたいという気力は衰えていない。

■ 佐々木美恵 さん 会員番号 17428

札幌出身札幌育ち、10 年前に会社の研修で浅間トレイルに参加したのがきっかけで登山を始めました。

その後ご縁があり、会友となって夏山・スノーシュー等の軽登山の山行に参加していました。

この冬から山スキーを始め、北海道外の夏山にも行けるようになりたいと思い、今年 4 月から会員にならせていただきました。

数十年ぶりのスキーは初心者状態、夏山もレベルアップして、これから色々な山行に参加して楽しみたいと思います。



支笏湖岸・幌下山にて

2025 年の主な山行予定

＊日程や行き先は変更になる場合があります

- 6月14日(土)
または15日(日) ●銀泉台 - 赤岳【残雪スキー & 花鑑賞】 L: 高尾
- 6月15日(日) ●二岐沢出合～ヌカピラ岳(状況により～戸蔭別岳) 登山道整備【登山道】 L: 高橋
日高町にて前泊 ＊「道の駅樹海ロード日高」午前4時発
- 6月22日(日) ●岩登り研修・赤岩【クライミング】 L: 齋藤・後藤(申込先＝黒川)
- 6月28日(土)
～29日(日) ●空沼岳～札幌岳縦走【登山道】 L: 藤木
万計山荘泊 ＊縦走路の点検整備をかねて実施。交差縦走の可能性あり
- 6月28日(土)
～29日(日) ●沢登り研修・裏沢 - 室蘭岳【沢登り】 L: 黒川
壮瞥町・森と木の里センターのコテージ泊
- 7月26日(土)
～27日(日) ●ニオベツ川 - 野塚岳／オムシャヌプリ【沢登り】 L: 黒川
前泊キャンプ
- 7月27日(日)
～28日(月) ●白金温泉 - 美瑛富士避難小屋 - オプタテシケ山【登山道】 L: 藤木
小屋またはテント泊 ＊美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの点検清掃活動
- 8月1日(金)
～3日(日) ●パンケニワナイ川 - 斜里岳 + α【沢登り】 L: 田中
テント泊
- 8月9日(土)
～11日(月) ●エサオマントッタベツ川 - エサオマントッタベツ岳【沢登り】 L: 山内
テント泊
- 8月22日(金)
～24日(日) ●トムラウシ川・ワセダ沢 - トムラウシ山【沢登り】 L: 黒川
テント泊
- 8月30日(土)
～31日(日) ●パンケヌーシ川五ノ沢右股 - チロロ岳【沢登り】 L: 黒川
前泊キャンプ
- 9月7日(日) ●千代志別川 - 雄冬山【沢登り】 L: 佐藤
増毛町・はまなす会館前泊
- 9月13日(土)
～15日(月・祝) ●羅臼岳 または 斜里岳／阿寒富士【登山道】 L: 黒川
キャンプ泊
- 9月20日(土)
～21日(日) ●ポンヤオロマップ岳 - 早大尾根 1483 峰【登山道※一部藪漕ぎ】 L: 黒川
テント泊
- 9月27日(土)
～28日(日) ●松仙園・沼巡り／比布岳 - 愛別岳〈紅葉鑑賞山行〉【登山道】 L: 黒川
愛山溪倶楽部泊
- 10月11日(土)
～13日(月・祝) ●恵山 - 海向山／砂原岳・駒ヶ岳【登山道】 L: 黒川
民泊施設・コテージ泊
- 10月18日(土)
～19日(日) ●庚申草山・中山峠付近〈秋の味覚を求める山行〉【登山道・林道】 L: 佐藤、黒川
中山小屋泊
- 11月1日(土)
～2日(日) ●稀府岳／室蘭岳〈お月見山行〉【登山道】 L: 藤木
室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設泊
- 12月6日(土)
～7日(日) ●カミホロ山域〈氷雪訓練〉【アイゼン・ピッケル】 L: 齋藤・後藤(申込先＝黒川)
白銀荘泊
- 12月20日(土)
～21日(日) ●十勝岳連峰・カミフェリア〈新雪滑降&雪崩対策訓練〉【山スキー】 L: 黒川
白銀荘または上富山荘泊

会員・会友の動向

- 新入会員 佐々木美恵 17428 会友から移行 ■新入会員 小川茉莉 17470 準会員から移行
佐々木潤也 17462 準会員から移行
鈴木由香 17465 準会員から移行 ■物故会員 藤原幸一 15496